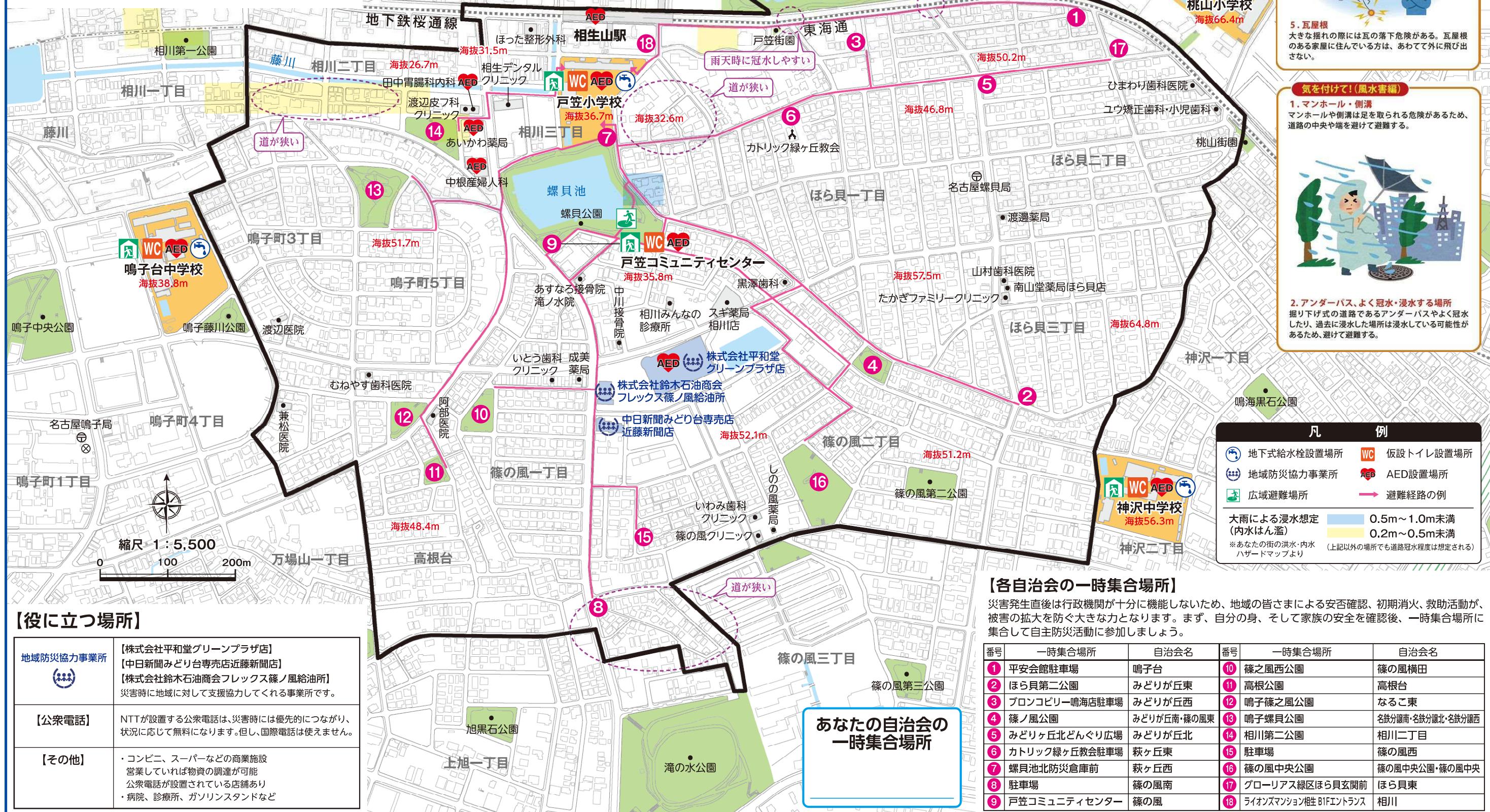


## 緑区戸笠学区

# 災害時避難行動マップ

～死者ゼロ・火災ゼロ・逃げ遅れゼロを目指して～

この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、戸笠学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。



# 緑区 戸笠学区

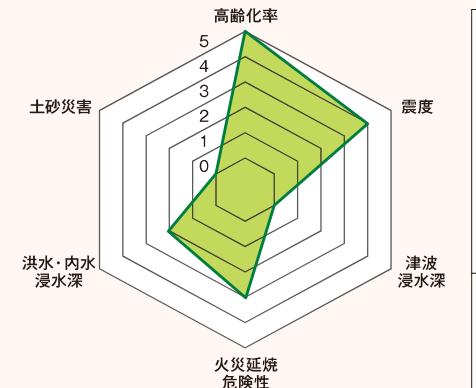
世帯：3,578 世帯 人口：8,498 人 面積：1,221k m<sup>2</sup>

(平成31年度2月1日現在の世帯数と人口より)

南海トラフ巨大地震(あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合)が発生した場合、学区の概ねの地域で震度6弱、藤川沿いの一部地域では震度6強が想定されており、震度が大きい地域では液状化の危険性も高くなっています。まずは、身を守りましょう。この時に怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。また、当学区は現行のハザードマップでは洪水による浸水は想定されておらず、内水氾濫の浸水想定も一部地域で1m未満となっていますが、想定以上の降雨があった場合に備え、普段から台風情報や降雨について情報収集できるよう確認しておきましょう。

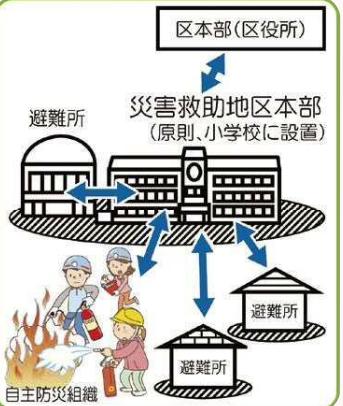
## リスクレーダーチャート([STEP1: 地域特性の把握])

	値	5段階
高齢化率	30.3%	5
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	500~1,000棟未満	3
洪水・内水浸水深	0.5m~1.0m未満	2
土砂災害	警戒区域なし	0



お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック塀など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。  
名古屋市 地区防災カルテ 検索



## 一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- ◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。(無事ですカードの掲出や、声かけなど)
- ◆災害の恐がなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- ◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

## 学区の取り決め、行動計画、心得など(ご協力ください)

- ★各種イベントなどを利用し、住民間のコミュニケーションを深めることで、災害時における安否確認や配慮を要する方への対応がスムーズに進むよう取り組みを進めます。
- ★各自主防災会組織による初動対応訓練を進めます。
- ★地域の危険個所の把握に努めます。

## ブロック塀等の安全確認にご協力下さい!

ブロック塀等の安全確認にご協力下さい!  
平成30年6月の「大阪府北部を震源とする地震」により、塀の倒壊被害がありました。ブロック塀等の所有者等の皆様は、安全確認をしていただくとともに、危険性が確認された場合は、安全なものに改修するか、撤去をお願いします。  
名古屋市のブロック塀等撤去助成をご活用ください。

### 注意が必要なブロック塀

※写真は全国建築コンクリートブロック工業会資料より引用

- ・傾いている、ぐらついている、ひび割れているもの
- ・鉄筋が基礎に定着していないもの
- ・鉄筋が通っていない透かしブロックが多用されているもの
- ・石垣の上など高い位置に造られているもの
- ・風化が激しい(劣化している)ものなど

### 問い合わせ

- ・安全確認について……住宅都市局 建築指導課 Tel972-2919
- ・撤去助成について……住宅都市局 耐震化支援室 Tel972-2921



## 地震時の行動(津波浸水想定区域外)

揺れた!!

揺が  
おさまった!!

災害の危険解消 X 避難先へ  
自宅での滞在が可能か O 在宅避難

- 身の安全の確保  
・頭を守り揺がれがおさまるまで待つ  
・安全に消せる場合は火を消す  
・家具や家電の転倒や落とし、ガラスの破片などに注意

自宅の耐震化や  
家具転倒防止対  
策を進めておき  
ましょう。

提供:効果的な防災訓練と防災啓発講演会

- ・火の元の確認、出火したら初期消火  
・怪我をしないように底の厚い靴や  
スリッパを履き、出入口の確保  
・家族の安否・家の被害状況の確認  
・テレビ・ラジオ・スマートなどから  
正しい情報の入手  
・非常持出品の準備

町内会・自治会単位に結成され  
た自主防災組織があり、災害時に  
初期消火・救出救護等を行  
う自主防災組織の活動にご協力を  
お願いします。

- ◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!  
避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

在宅避難している  
高齢者や障害者などへの声掛け  
最寄りの避難所で  
避難者登録  
周囲で食料や  
物資を分け合う

緊急避難が  
必要な場合は、  
避難!

●高齢者や障害者など  
の避難誘導を

●原則、徒歩で避難

## 風水害時の行動

3日前

台風が発生した  
情報収集

- ・テレビ・ラジオ・スマートなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報を入手

2日前

台風や大雨が来るぞ!!  
準備

- ・避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- ・家族との連絡方法の確認
- ・家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け



1日前

雨足が強くなってきた!!  
避難の判断

- ・情報収集を続けて、避難開始時期を判断
- ・50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- ・自動的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する
- 洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の間にいる  
●土砂災害警戒区域にいる  
●堤防の近くで、安全な建物にいない

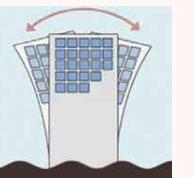
自宅などにとどまる  
該当しない  
どれか一つ以上該當する

避難情報の発令等により避難行動!!

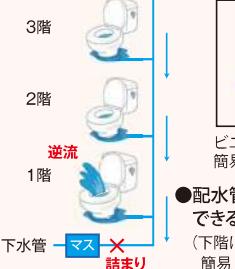
●ただちに避難!  
(垂直避難)  
・指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ  
・屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ  
●避難勧告  
・被害が発生するおそれがあるため、避難をすすめるために発令するもの  
●避難指示(緊急)  
・被害の危険が目前に迫り、生命の危険がより高まったため、避難を強くすすめるために発令するもの

## マンションでの防災・減災

マンションは耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等マンション特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。



●高層建築物は、長周期地震動と共に振して長時間、  
大きく揺れる。  
(家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「ここだけは安  
全!」という場所をつくる)



●配水管が安全確認ができるまで  
できるだけ水を使わない。  
(下階における汚水の逆流防止。  
簡易トイレ(便袋)などを活用)



●地域コミュニティとの良好な関係  
(日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある)

## 在宅避難のススメ

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るために、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- ・在宅避難している高齢者や障害者などに声掛けよう!
- ・周囲に自宅避難を知らせよう!
- ・最寄りの避難所で避難登録しよう!
- ・周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう!

## 日頃の心得

お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック塀など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。  
<http://www.city.nagoya.jp/bosaikikanri/page/0000110628.html>

- ◆非常持出品・備蓄品を用意する。  
水や食糧、携帯用トイレ等の備蓄品を1週間分、そのうち3日分は非常持出品として持ち運びができるようにしましょう。
- ◆家具の転倒防止をする。  
家具に押しつぶされたり、避難の妨げとなるような家具の固定やレイアウトの工夫をしましょう。
- ◆家族との安否確認方法を決めておく。  
NTTの災害用伝言ダイヤル「171」や、各携帯電話会社が提供する災害用伝言板サービスを確認しておきましょう。
- ◆建物を耐震化する。  
昭和56年5月以前に着工した住宅には助成制度があります。